

関西まちづくり賞委員会

1) 関西まちづくり賞の趣旨と経緯

関西支部では、かつて支部長を務められた故仙石泰輔氏ならびに故田中孝男氏のご遺族からのご寄付を基金として「関西まちづくり賞」を設け、「まちづくりおよび都市計画の進歩・発展に著しい貢献をしたすぐれた成果または実績」を顕彰することにより、関西におけるまちづくりおよび都市計画の進歩・発展に資するとともに支部会員の意識の高揚をはかっています。この賞は、1998年11月の創設以来その表彰を行ってきており、毎年翌年度の支部総会時に表彰式を行っています。2013年度の総会で表彰した2012年度受賞で15回目を数えています。

2) 第15回関西まちづくり賞の選考と授賞プロジェクト

第15回の選考では、都市計画・まちづくり分野の調査・研究・設計・事業およびまちづくり活動のうち、特に、都市計画の発展に資する特色ある成果で、支部会員が直接関与もしくは推薦するものを対象とし、「新しい試み」「継続的な活動」「協働の取り組み」「他の地域で参考となる提案」の視点から評価されるものの推薦を受け付けました。

応募されたプロジェクトについて、支部内に設けられた「関西まちづくり賞委員会」が中心となって、「応募資料の審査」「現地での調査およびヒアリング」等の選考作業を行い、最終的に支部幹事会の議を経て、3プロジェクトを「関西まちづくり賞」に選定するとともに、1プロジェクトを特別賞として「関西まちおこし賞」に選定しました。

「関西まちづくり賞」3件

寝屋川市駅東地区 第2種市街地再開発事業（大阪府寝屋川市）

（受賞者 株式会社大林組、株式会社東畑建築事務所、株式会社エス・ジー都市経営、株式会社まちづくり工房・晴、寝屋川市）

京阪本線寝屋川市駅東側の低層木造住宅地の再整備にあたり、日本で初めて、会社施行によって第2種市街地再開発事業を完成させ、寝屋川市の新たな顔となる、賑わいのある良好な市街地を整備した事業です。

～大阪駅が“まち”になる～ 「大阪ステーションシティ」の開発（大阪府大阪市）

（受賞者 西日本旅客鉄道株式会社、大阪ターミナル株式会社）

大阪駅周辺を「人が集い、憩い、また賑わう、一つのまちの創出」を目的として、南北の分断を解消し人々が回遊する通路や個性豊かな8つの広場を整備することに加え、各種プログラムやエリアマネジメントを導入し、無機質な公共空間を多くの人が集う文化的な空間として再生させる先駆的な取組です。

修徳まちづくり憲章（京都府京都市）

（受賞者 修徳自治連合会、修徳まちづくり委員会、公益財団法人京都市景観まちづくりセンター、京都大学大学院工学研究科建築学専攻門内研究室、社団法人京都府建築士会ま

ちづくり委員会)

まちづくりの方針を「修徳まちづくり憲章」として住民主体でとりまとめ、景観保全に取り組んでいます。単にデザイン基準に適合した建築物の制限でなく、修徳地区にふさわしい景観づくりに配慮しながら「基本的に受け入れる」柔軟な対応を行うことで、若者など新たな住民を受入れ、地域のコミュニティ形成につなげています。

特別賞「関西まちおこし賞」1件

さまざまな地域資源を活用した都市農村交流事業による村づくり（兵庫県多可町）
（受賞者 兵庫県多可郡多可町加美区観音寺集落）

兵庫県の中山間地域において、地区全体で27世帯という小規模集落が、集落コミュニティの維持・活性化に向けて、「菜の花エコ・プロジェクト」を契機とした様々な特産品開発や、神戸大学生との交流活動を進めることにより、衰退しがちであった集落内のコミュニティ活動を活性化させた農村活性化のモデル的なプロジェクトです。

3) 表彰式およびミニシンポジウムの開催

表彰式は2013年4月7日関西支部総会に引き続き行われ、表彰状・盾の授与の後、受賞者からのプレゼンテーションと、受賞者代表・まちづくり賞委員をパネラーとしたミニシンポジウムを開催し、会場参加者を含めて意見交換を行いました。

今回の受賞プロジェクトは、関西を代表するとも言える大きなプロジェクトから、地域住民も積極的に参画しながら事業展開をしている地域密着型のものまで、多様な内容となっており、会場との討論では、事業の遂行プロセスにおける苦労や工夫などについて活発な意見交換が行われました。

最後に、支部としてのこのような顕彰活動を通じて、関西独自の特色あるまちづくり活動をさらに発掘し、そのような成果をもとにこれからも関西からまちづくりの発信していくことなどを確認してシンポジウムの幕を閉じました。

写真1 盾の授与



写真2 受賞者の皆さん

